



平成26年度

川崎市学習支援・居場所づくり事業

中原”わくわく”学習会

実績報告書

認定NPO法人キーパーソン21

目次

実施概要p.2

- 基本情報p.3
- 運営体制図p.4
- 支援方針p.5
- 通常開室時のタイムスケジュールp.6
- 学習支援の体制p.7
- 学習支援時に使用した書類の一覧p.8

開室の実績と子どもの出席状況 …p.9

- 開室回数実績p.10
- 登録生徒数と出席率の推移p.11
- 辞退した生徒の事由p.12
- 特別開室の実績p.13

学習支援としての成果p.14

- 全体としての学習成果p.15
- 事例紹介p.16
- 合格実績および志望校の一覧.....p.17
- 子どもたちの声p.18
- サポーターの声p.22
- 総括p.25

居場所づくり事業としての成果 …p.26

- 子どもたちの声（集計）.....p.27
- 出席率の低下した子どもへの対応p.30
- 子どもたちの声（引用）.....p.32
- サポーターの声p.34
- 総括p.36

キャリア教育の成果p.37

- キャリア教育プログラム概要p.38
- 面接対策プログラム実施実績p.39
- 面接対策プログラムに対する子どもたちの声.....p.40
- サポーターの声p.42
- その他進学に関する支援実績p.43
- 総括p.44

学習サポーター関連p.45

- 学習サポーター数と出席数の推移p.46
- 研修実績p.47

まとめp.48

- 今年度の成果p.49
- 次年度への課題p.50
- 次年度の方針p.51

実施概要

基本情報

【学習会名称】

中原”わくわく”学習会（通称：なかわく）

【開室期間】

平成26年6月12日～平成27年3月31日

【実施場所】

ごうじ老人いこいの家（1階と2階）

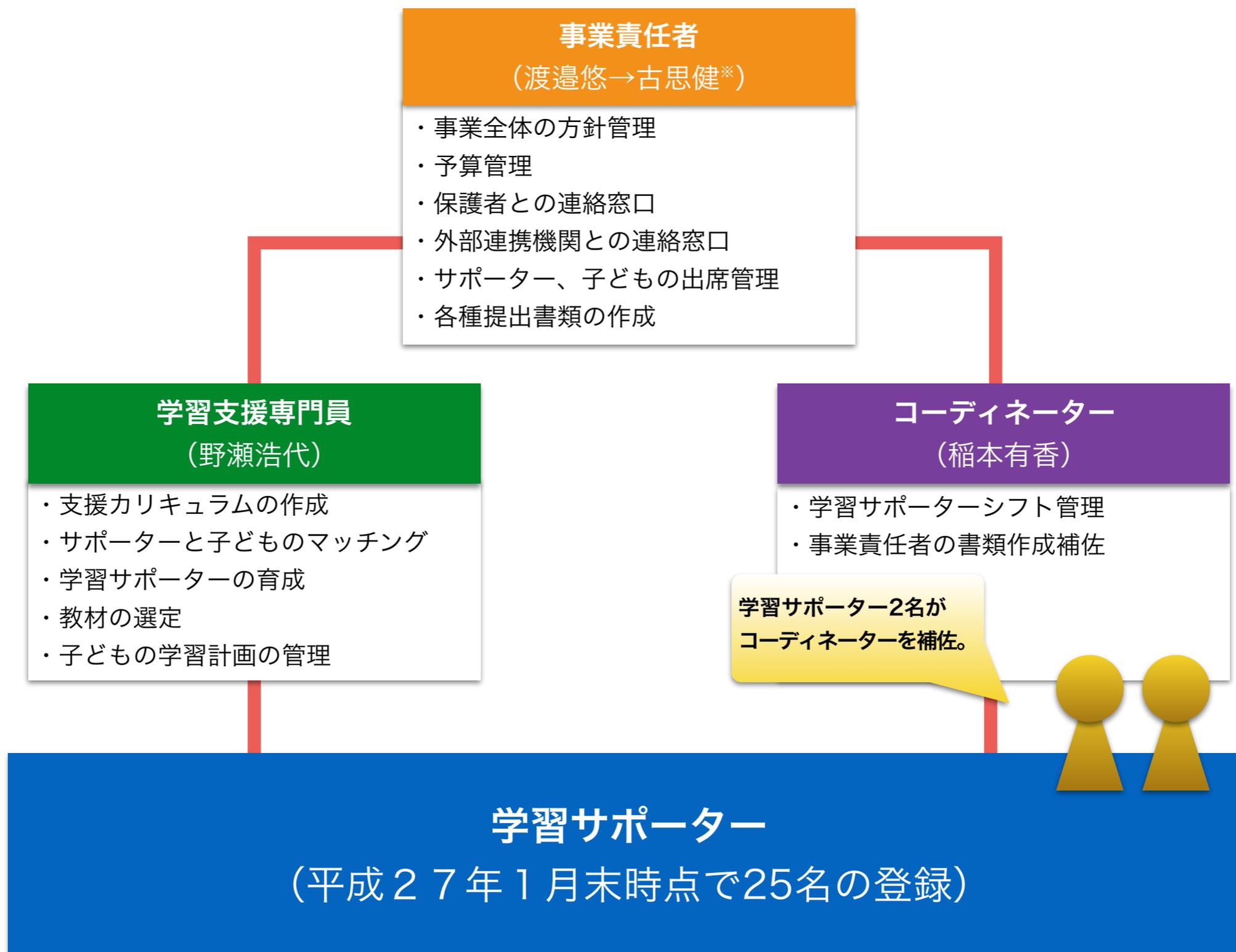
【実施時間】

18時30分から20時30分

※本事業は川崎市の委託により実施しました。



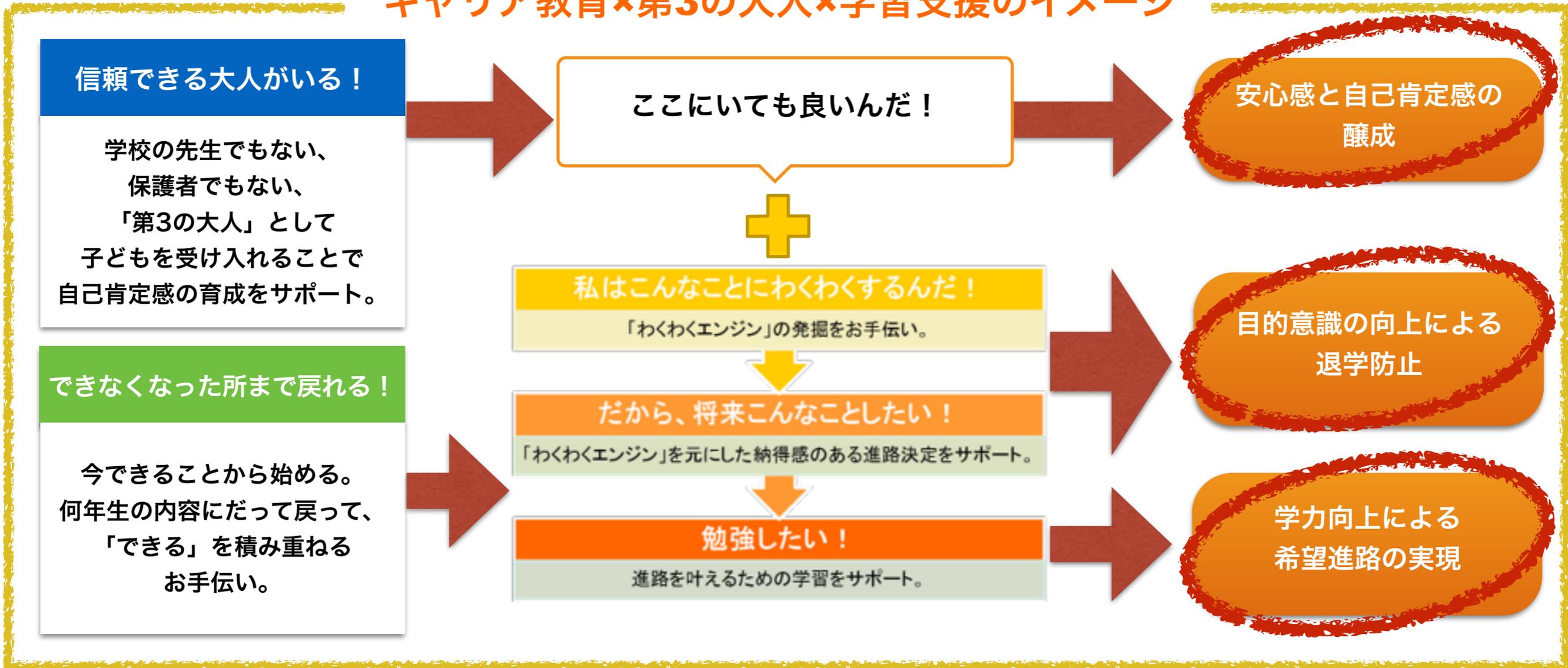
運営体制図



※渡邊悠が平成26年9月19日に急逝。同日より11月中旬まで弊団体朝山が代行し、11月末より古思健が就任。

支援方針

キャリア教育×第3の大人×学習支援のイメージ

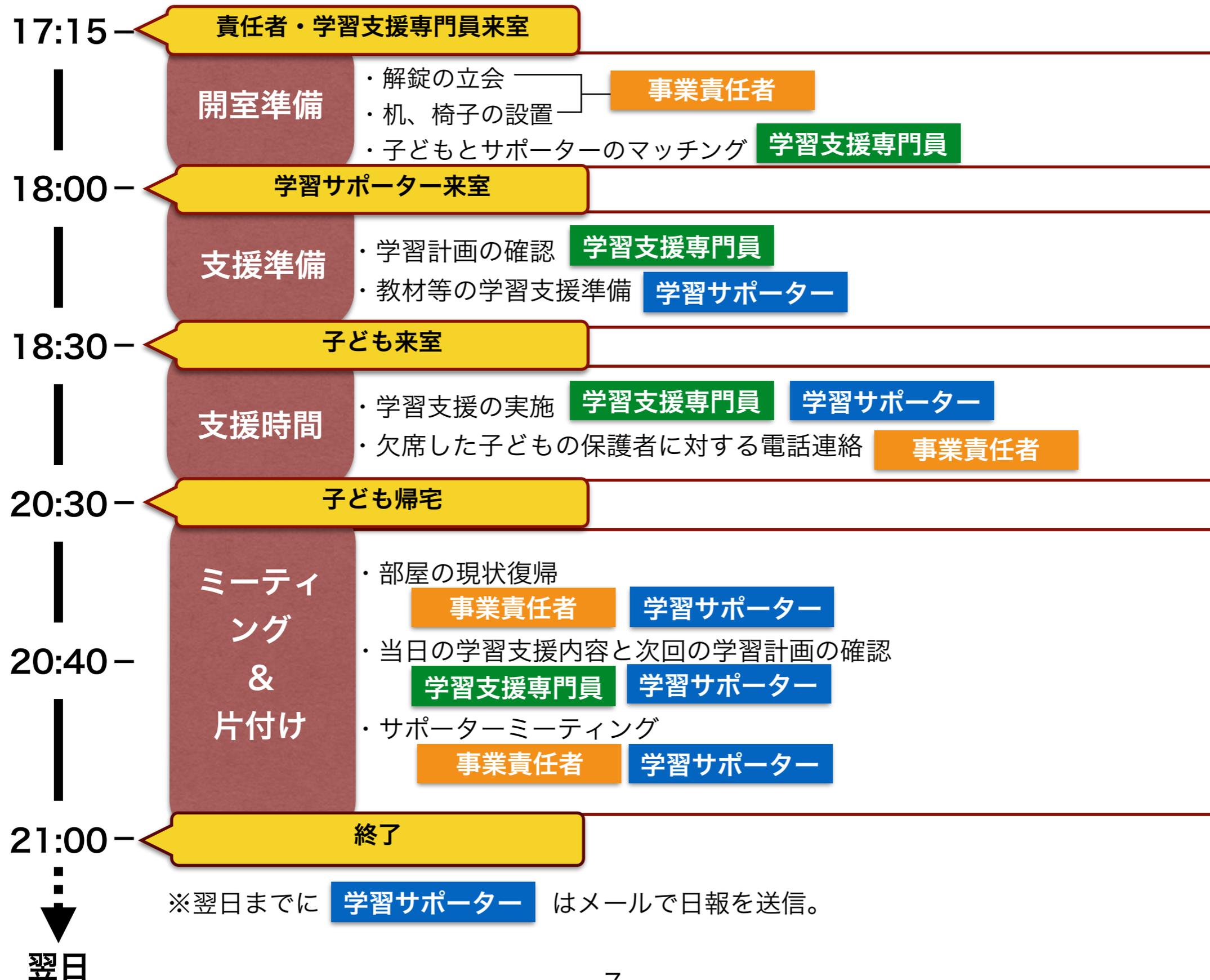


ワクワクエンジン®とは...

「ひとりひとり誰もが持っている、ワクワクして動き出さずにはいられないような原動力のようなもの」のことです。

- 「高校進学」はもちろんのこと、その先を見据え、目的意識と自己肯定感の成長を併せた学習支援を方針として実施。

通常開室時のタイムスケジュール



学習支援の体制

グループ制による支援

3年生



子ども2人に対して学習サポーターが2名配置。
サポーター同士が互いに苦手科目や予定を補う。

1・2年生



学習サポーター1名につき、子ども1~2人を担当。
1年生男子、2年生男子、2年生女子が一部屋ずつに分かれる。

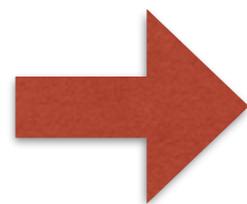
学習計画

学習日誌の運用

学習の記録			
結果	予定	使用教材	メモ
○	英語: 現在完了(英作文)	出る順 P.21-23	訳~英作文まで完璧!
△	数学: 二次方程式	学校のワーク P.20-21	P.20のみ。
—	国語: 漢字テスト	手書きプリント	次回2回分まとめて実施。
【メモ】 宿題…数学の学校のワーク P.21 27日に定期テストあり。			

授業の最後に次回の学習計画を立て、次の学習が終了した時にはどの程度到達できたかを記録。毎時間学習支援専門員の確認を受ける。

※3年生のみ 9月~10月に定期試験および入試までの月間計画を作成し実行。



グループによる連帯感が生まれ、来室率が向上。
学習日誌の運用により、サポーターが欠席などで変更となる際にも、円滑な引き継ぎが可能。

学習支援時に使用した書類の一覧



A screenshot of a performance table with columns for subjects and rows for students, used for recording test scores and internal application points.

【高校進学のための成績表】

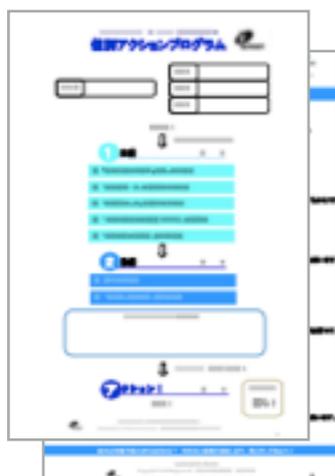
1年生から3年生までのテストの成績や内申点を記録する表。
子どもの成績の変化を一目で確認可能。



A screenshot of a learning diary form with columns for subject, lesson plan, and materials used, designed for recording lesson plans and learning progress.

【学習日誌】

学習支援の授業計画を、科目・使用した教材とともに記入。
次回授業時に何をすべきかがわかり、また今回の授業でできたこととできなかったことをまとめることが可能。

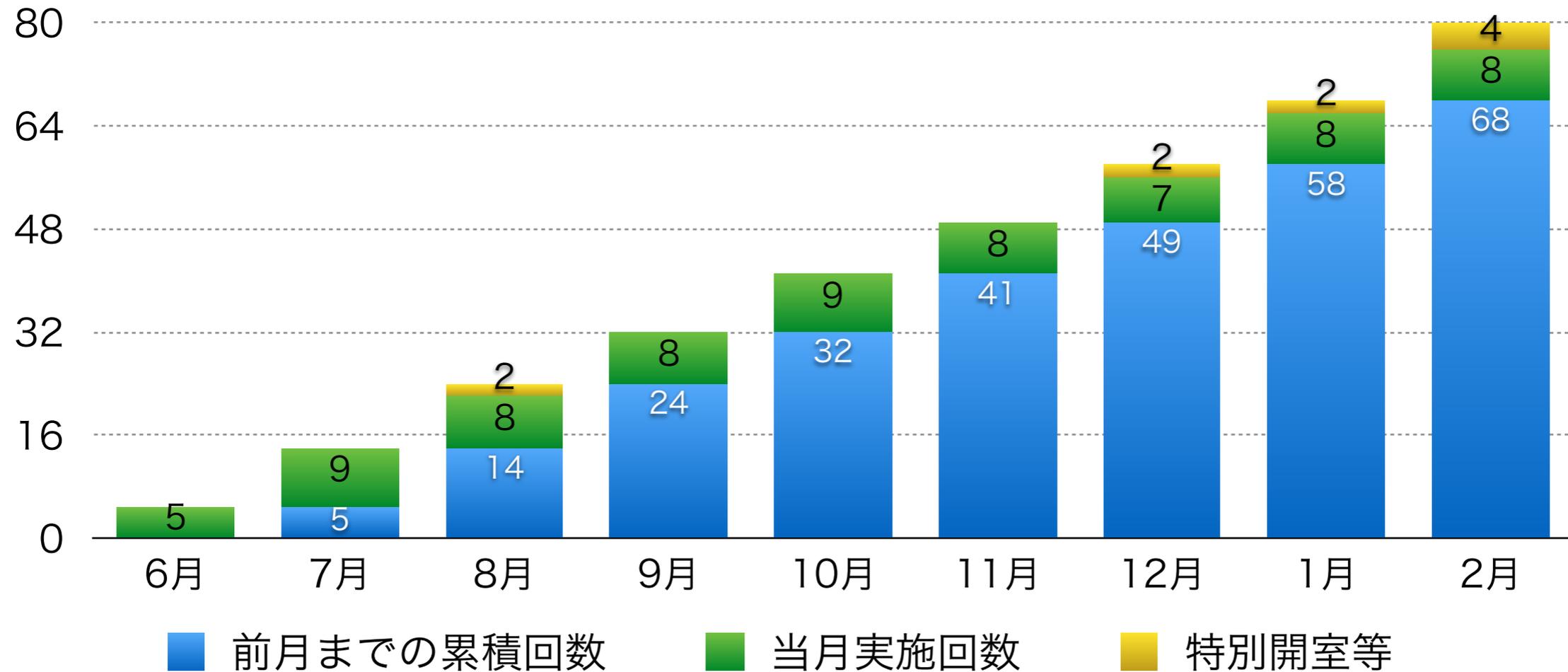


【面接対策プログラム ワークシート】 ※3年生のみ

キャリア教育プログラムの一部である「面接対策プログラム」のワークシート。子どもの「わくわくエンジン®」がわかり、子どもが何にわくわくするかを把握し、授業時の参考とすることが可能。

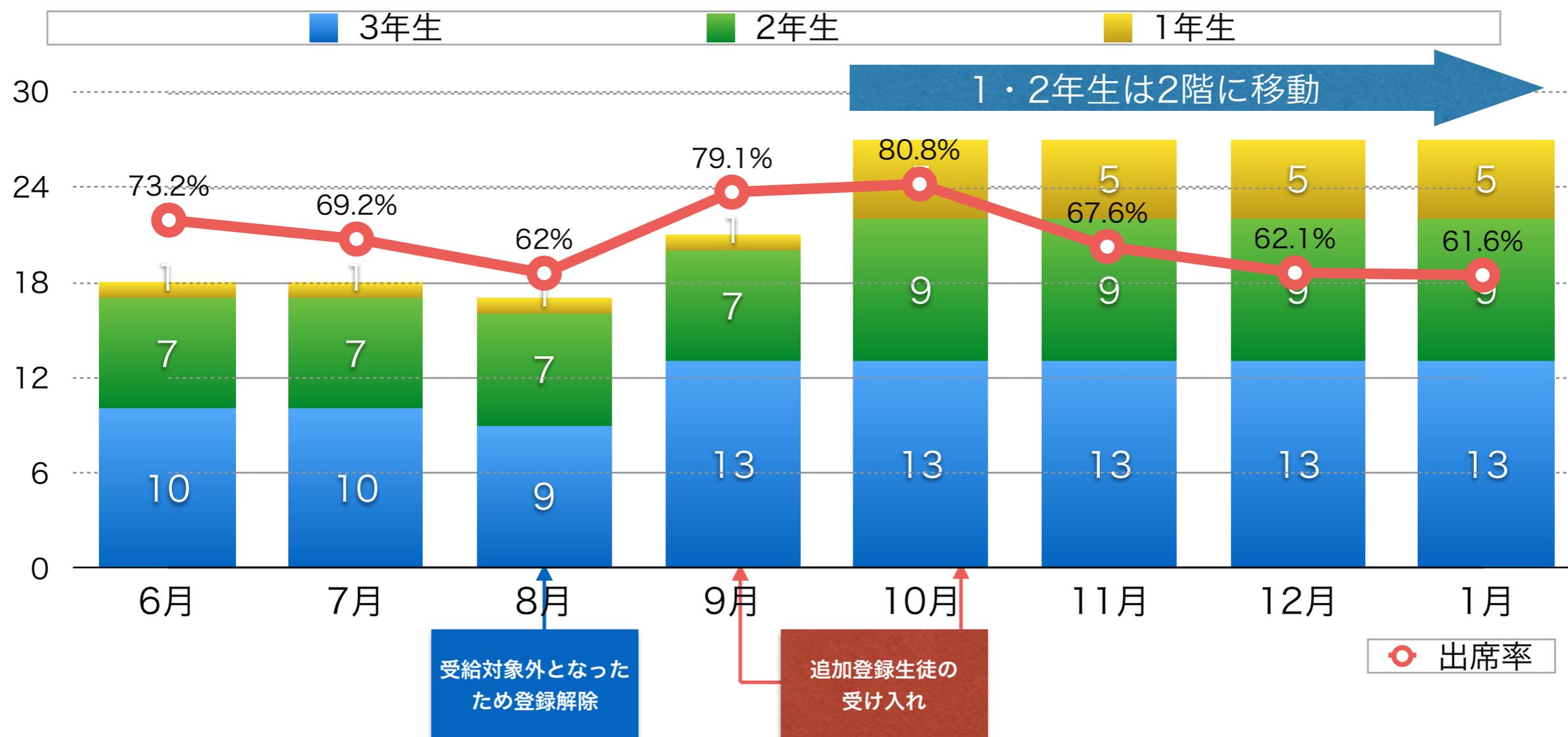
開室の実績と 子どもへの出席状況

開室回数実績



- ・ 平成26年6月12日～2月28日までで80回の開室を実施見込み（特別開室を含む）。
- ・ 特別開室については、夏休みに1泊2日の合宿、冬休みと受験直前期に特別開室を実施。

登録生徒数と出席率の推移



- 登録生徒総数は1月末時点で27名（内1名が登録辞退申し入れ）、平均出席率は69.8%。
- 特に3年生は試験直前期に「自宅で集中して勉強したい」という理由での欠席が増えた。

辞退した生徒の事由

・ 3年生のAさん（仮名）

→生活保護受給の対象外となったため、8月に登録辞退。

・ 3年生のBさん（仮名）

→より学習に集中できる環境に移るため、12月より来室停止。
2月に登録辞退届を提出済み。

来室停止後、保護者より事由について以下の通り説明あり。

- ・ 成績が上がり、子どもがもっと勉強をしたいと言っている。週2日では少ない。
- ・ 周囲がうるさく、人数も多いため学習会では集中ができない。
- ・ 担当サポーター2名の内、1名との相性が良くない。



Bさんは来室停止の直前まで来室率が非常に高く、来室した際には明るい表情だったため、子ども本人からの聞き取りもできず登録辞退となった。

特別開室の実績

夏合宿

【日時】 平成26年8月1日～2日
 【場所】 川崎市青少年の家
 【子どもの出席人数】 2人（3年生1名、2年生1名）
 【学習サポーター出席人数】 11人
 【内容】 面接対策プログラムの実施、学習支援、レクリエーション

地域柄、部活動に熱心な学校が多く子どものほとんどが部活動のため出席不可となり、参加者が少なくなった。

冬季特別開室

【日時】 平成26年12月26日・28日・平成27年1月4日（各日13:30-16:30）
 【場所】 わくわくステーション（キーパーソン21会議室）
 【子どもの出席人数（延べ）】 9人（3年生）
 【学習サポーター出席人数】 11人
 【内容】 面接対策プログラムの実施、学習支援、レクリエーション

3年生を対象に開講。毎日3時間、来室した子どもは真剣に取り組み、教室内は活気あふれる状況となった。

受験直前特別開室

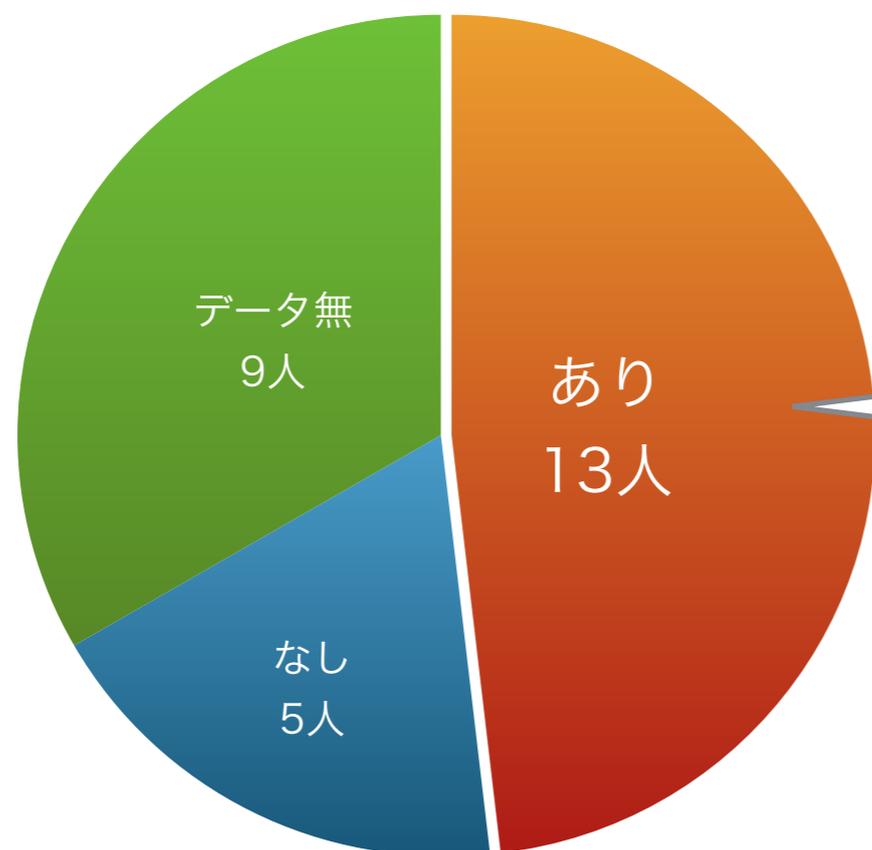
【日時】 平成27年1月31日・2月1日・14日・15日（各日13:30-16:30）
 【場所】 わくわくステーション（キーパーソン21会議室）
 【子どもの出席人数（延べ）】 12人（3年生）
 【学習サポーター出席人数】 14人
 【内容】 面接対策プログラムの実施、学習支援、レクリエーション

3年生を対象に開講。通常開室に来られなくなっていた子どもも来室し、特別開室をきっかけに来室を再会。出席者は真剣に取り組んでいた。

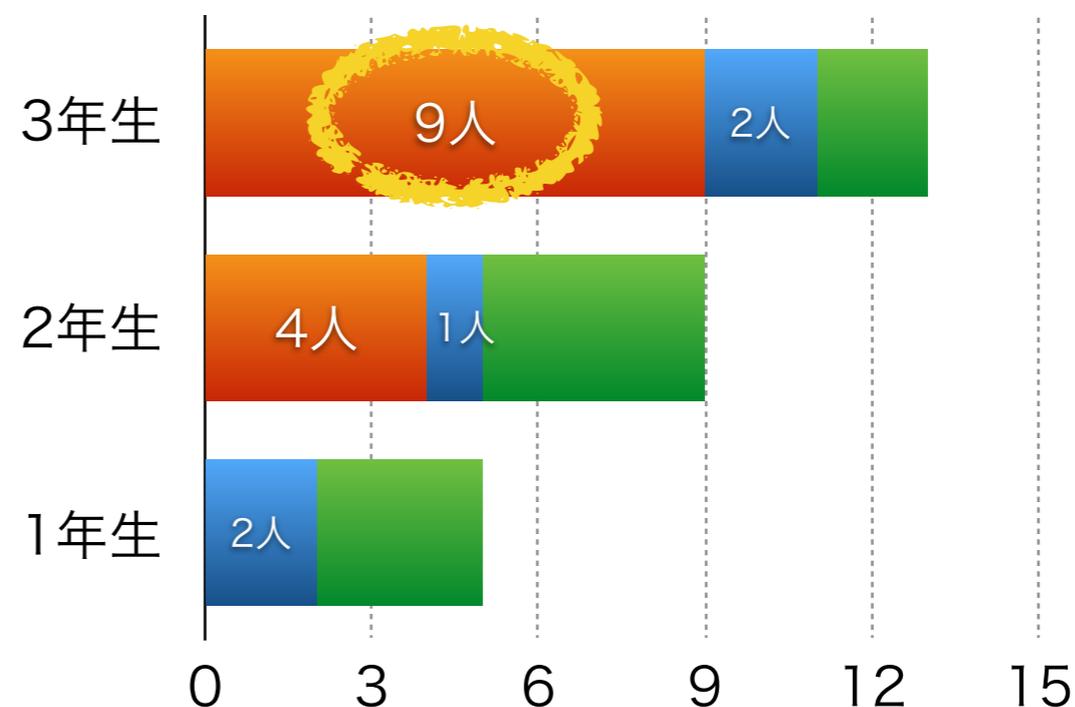
学習支援としての成果

全体としての学習成果

成績の向上が見られた子どもの人数



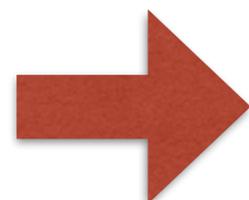
3年生の内、9人の成績が向上。



※「登録前または登録直後」と「記録されたデータの中で最新」の内申または試験点数を比較した場合、双方またはどちらかに向上が見られた子どもを「あり」として集計。

※「データ無」は以下の様な理由で成績のデータが無い子どもの数。

→出席回数が極端に低い（全期間通して2回程度）、9月～10月に登録したため十分なデータが無い、学校の進捗と切り離れた支援を行っている、高校進学が来室目的ではない（「特別支援級に通学しているが、生活のリズムを作るために来室したい」等）



成績データのある子どもの約72%に成績の向上が見られた。

事例紹介

【Fさん（3年生：仮名）】

6月から来室。登録時の内申は26だったが、来室するにつれて自学自習するようになり、積極的に問題集を借りるなどして勉強。学年内申は前年度から6上げて34となった。

【Gさん（3年生：仮名）】

6月から来室。中学2年生の1年間、入院のため院内学級で過ごした分、学校の進度から遅れがあったが、積極的に来室。サポーターの支援もあり、前期の期末テストでは中間テストから5教科で35点上昇。内申を18から24に上げ、私立高校の推薦枠で合格。

【Iさん（2年生：仮名）】

6月から来室。登録時は小学5年生頃から授業を聞いておらず、中学1年の頃は「学校には行っていたが授業は出ていない」状態。来室から3ヶ月間ほどは集中力が10分しか持たない状態だったが、小学校範囲から支援することで徐々に集中できるようになり、現在では1時間40分集中して勉強できるまでになった。

合格実績および志望校の一覧

【合格：3名】

- ・ 県立中原養護学校：1名
- ・ 私立白鳳女子高校（推薦）：2名

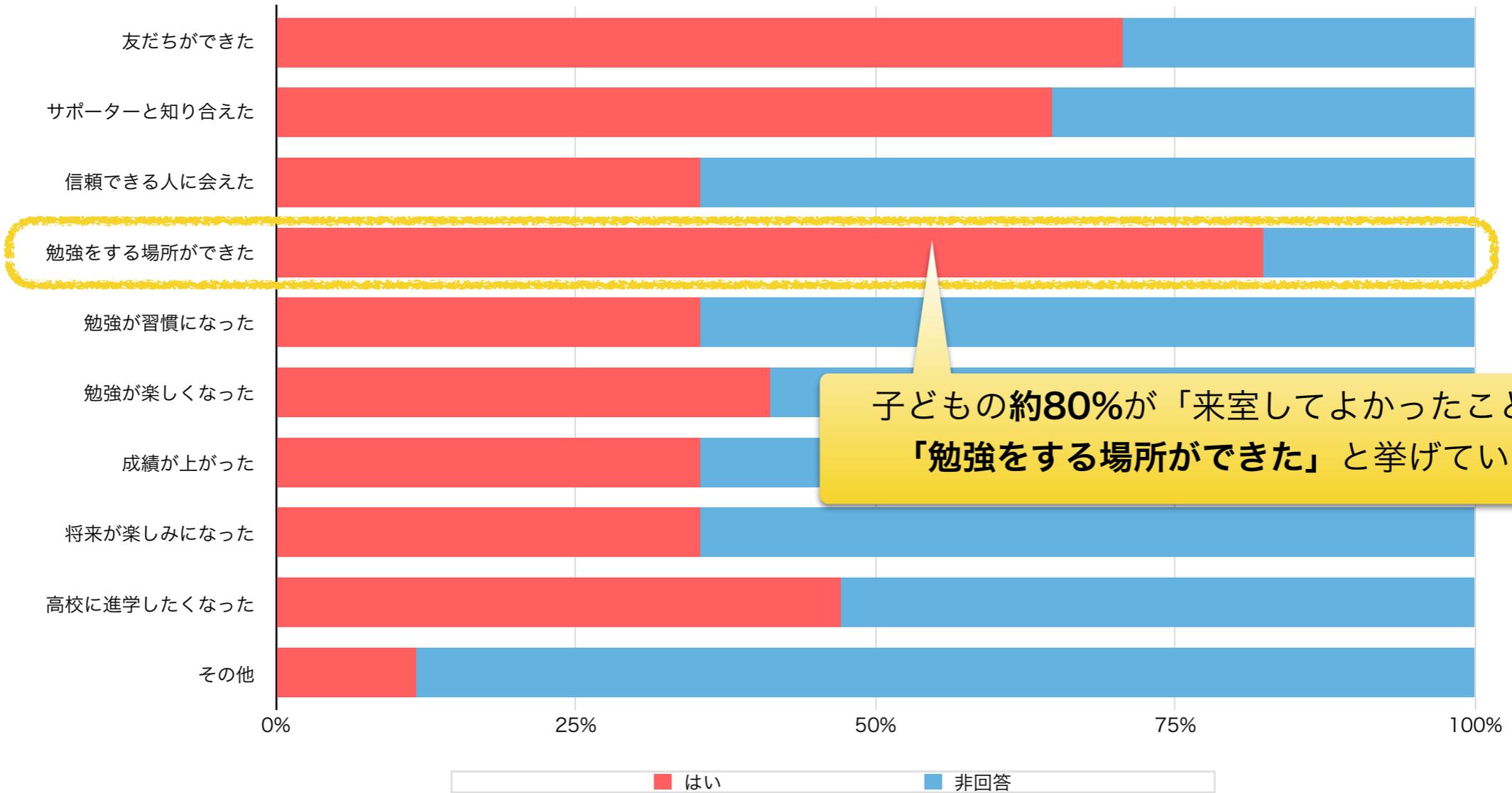
【全日制高校受験（結果待ち）：8名】

- ・ 川崎北高校：1名
- ・ 高津高校：1名 ※私立併願で日体荏原高校合格。
- ・ 大師高校：2名
- ・ 生田東高校：1名 ※私立併願で白鵬女子高校合格
- ・ 川崎工科高校：1名 ※私立併願で高校合格
- ・ 市立川崎高校：1名 ※私立併願で蒲田女子高校合格
- ・ 向の丘工業高校：1名

子どもたちの声

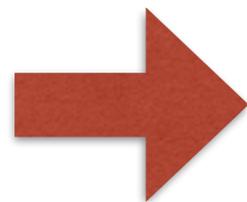
(学習支援としての成果について)

1. なかわくに来て良かったと思うことはなんですか。(全学年：n=17)



子どもの約80%が「来室してよかったこと」に「勉強をする場所ができた」と挙げている。

(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)

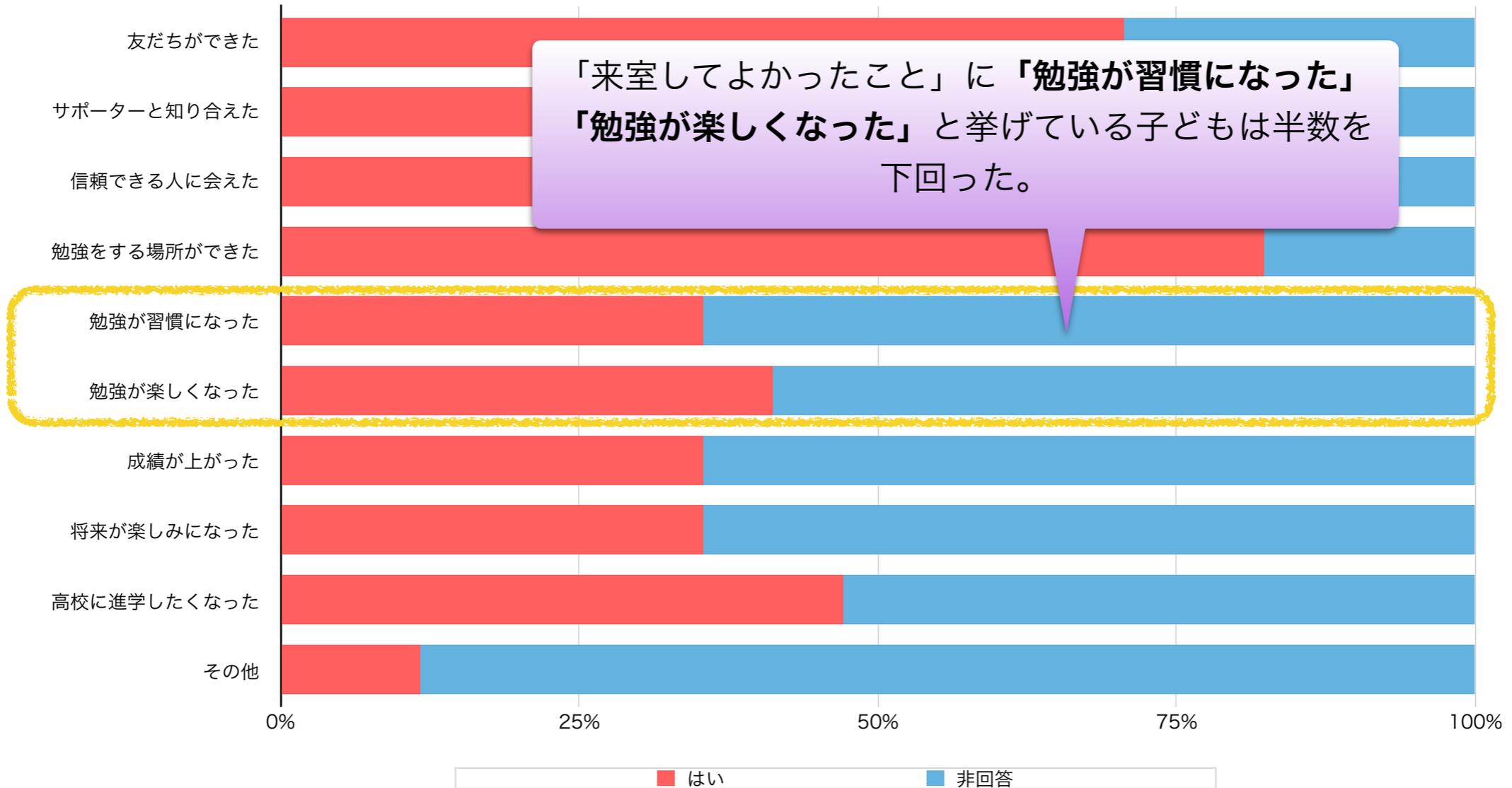


学習場所の提供は子どもたち自身にとっても大きく意義のあることである。

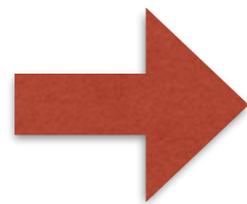
子どもたちの声

(学習支援としての成果について)

1. なかわくに来て良かったと思うことはなんですか。(全学年：n=17)



(中原"わくわく"学習会 登録生徒に対するアンケートより)



子どもたちが「自分で学習することができるようになる喜び」を感じられるようにする工夫が必要。

子どもたちの声

(アンケートから原文のまま引用)

- ・ なかわくにきてから週4時以上はべんきょうをするようになってよかったです。
- ・ 問題がわかるとたのしいのでそのたのしさをいかしてたくさんべんきょうできるようになりたいです。

- ・ 毎回おやつがあって、いいね～！！サポーターの人も面白いし、教え方上手だしお話したりで楽しかった♪
- ・ いろんな教材くれたり、かしてくれたりしててすごく役に立ちましたー。Thank you ーす！！

- ・ 勉強を分かりやすく教えてくれるのと、話しやすく楽しいのでとても良いと思っています。

- ・ 勉強が習慣ぽくなったことや、勉強をしていて解らないことがあっても教えてくれる人がいるのでその場で理解できる。
- ・ サポーターの方が優しい。プラスわかりやすく教えてくれる。とても楽しく勉強が出来てうれしいです。サポーターの方々には本当にお世話になっています。

- ・ みんなとても分かりやすく教えてくださるのでとても覚えやすいです。
- ・ 学校などでも問題が解けるようになったのがとてもうれしかったです。これからもよろしくおねがいします！！

- ・ なかわくに来て、勉強の楽しさがすごくわかり、将来のことも考えられたのすごく嬉しかったです。

(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)

子どもたちの声

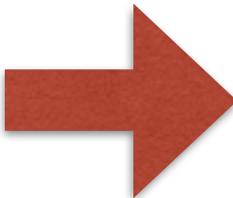
(アンケートから原文のまま引用)

・ 家での勉強のやり方を少しでも教えてもらいたいです！

・ 英数国理社などのやくにたつプリントがほしい。(テストに役立つプリント)

・ 宿題をもっとふやしてほしい。時間がみじかいのもっとふやしてください。

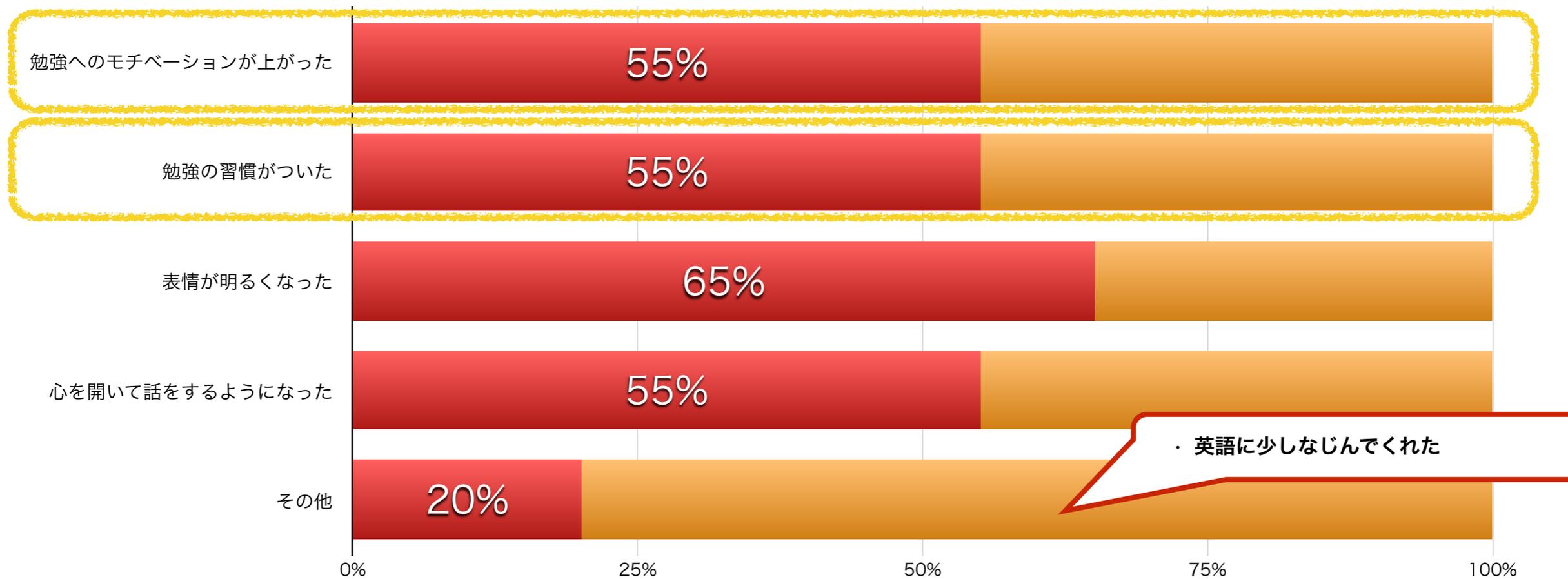
(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)



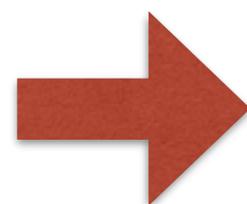
家庭学習のやり方がわからない、または家でやる教材が無いという意見が散見された。

サポーターの声 (学習支援としての成果について)

開室期間全体を通して子どもたちにどのような変化がありましたか。(n=20)



(中原”わくわく”学習会 サポーターに対するアンケートより)



サポーター視点では、来室直後よりも勉強の習慣がついたり、モチベーションが上がっている様子が見られている。

サポーターの声

(アンケートの「心に残る子どものエピソードは？」に対する回答から引用)

- 宿題を出すと嫌がったりするがしっかりとやって見せてくれること。見せて来た時に自信のある表情をしたこと
- 初めは分からないとペンも持ってくれなかった子どもが、「待って、メモリたいからもう一回言って」と積極的な姿勢をみせてくれた日があったこと。
- 最初は小学生程度の問題もままならなかった子たちが、一から教えると中3レベルの問題も解けるようになったこと。
- 入試が近づいてからは、積極的に勉強をしようという姿勢も見られて、よかったと思いました。
- 2年生の生徒さんはいつも宿題をやってきてくれるようになり、また、“勉強が面白くなってきた”とも言ってくれています。成績も前回のテストの結果は殆どの科目で改良されました。

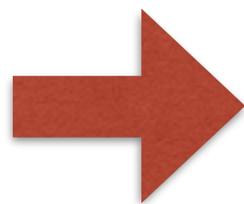
(中原”わくわく”学習会 サポーターに対するアンケートより)

サポーターの声

(アンケートの「サポーターをしていて困ったことは？」に対する回答から引用)

- 勉強に時間をとって自力で努力しようという意識、姿勢がまだ植え付けられていないこと。(中2だから余計かもしれませんが)
- なかなか勉強の成績が伸びないこと。また家での学習状態がよくわからないこと。
- 1年生の生徒さんで、なかなか勉強の習慣がついていないひとがいて、基礎の復習をしていますが、1週間に1回だけでは中々結果に繋がりそうもありません。
- 学習支援の活動の最終的な目標は子供たちが家で勉強をさせることだと思いますが、それをなかなか実践するのが難しかったと感じています。

(中原”わくわく”学習会 サポーターに対するアンケートより)



サポーターの側でも、自主的な学習に対する支援に困難が感じられている。

学習支援としての成果 総括

【「勉強できる場所」の提供そのものに意義があることを再認。】

子どもたちの80%以上が「勉強できる場所ができたこと」がよかったとアンケートで答えていることから、勉強に集中できる場所を設けること自体に意義があると言える。特に本学習室に登録している子どもの中には「親類が高校に行かなくても良いというため、母親も勉強しなくて良いと言ってくる」など、家庭で勉強ができない事由がある子どももおり、物理的な「場所」に対する需要は明らかであると考えられる。

【3年生の学力向上に成果あり。1,2年生については見直しが必要。】

3年生の成績向上は「試験までの開室時に何を勉強するか」という学習計画の作成を行ったり、2対2のきめ細やかなサポートも成功の要因であると考えられる。一方で1・2年生の成績向上があまり見られなかった点については、特に男子は固定のサポーターがつかなかったことも考えられる。来年以降については、1・2年生の支援体制の見直しが必要であると考えられる。

【「子どもが一人でも学習ができる」ことを目標とした支援を検討。】

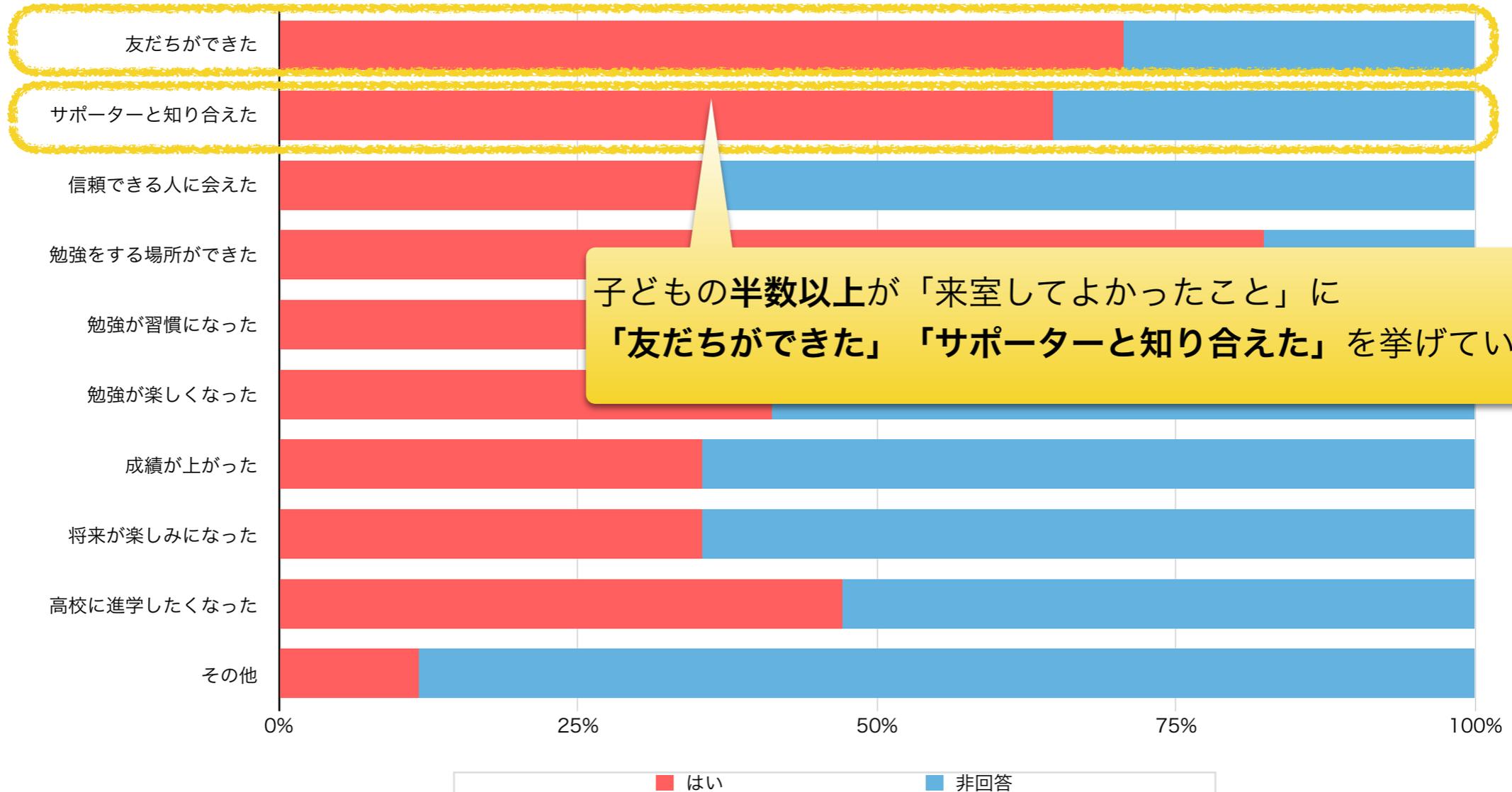
子どもの声にもサポーターの声にもあった通り、そもそもの学習習慣が無いため「自分一人になると勉強できない」状態の子どもが多く、学習室にいる間には勉強ができるがそれ以外では勉強が出来ない状態の子どもが多かった。次年度ではその改善に取り組みたい。

居場所づくり事業としての成果

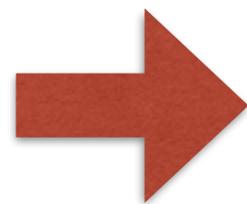
子どもたちの声

(居場所づくり事業と関連して)

1. なかわくに来て良かったと思うことはなんですか。(全学年：n=17)



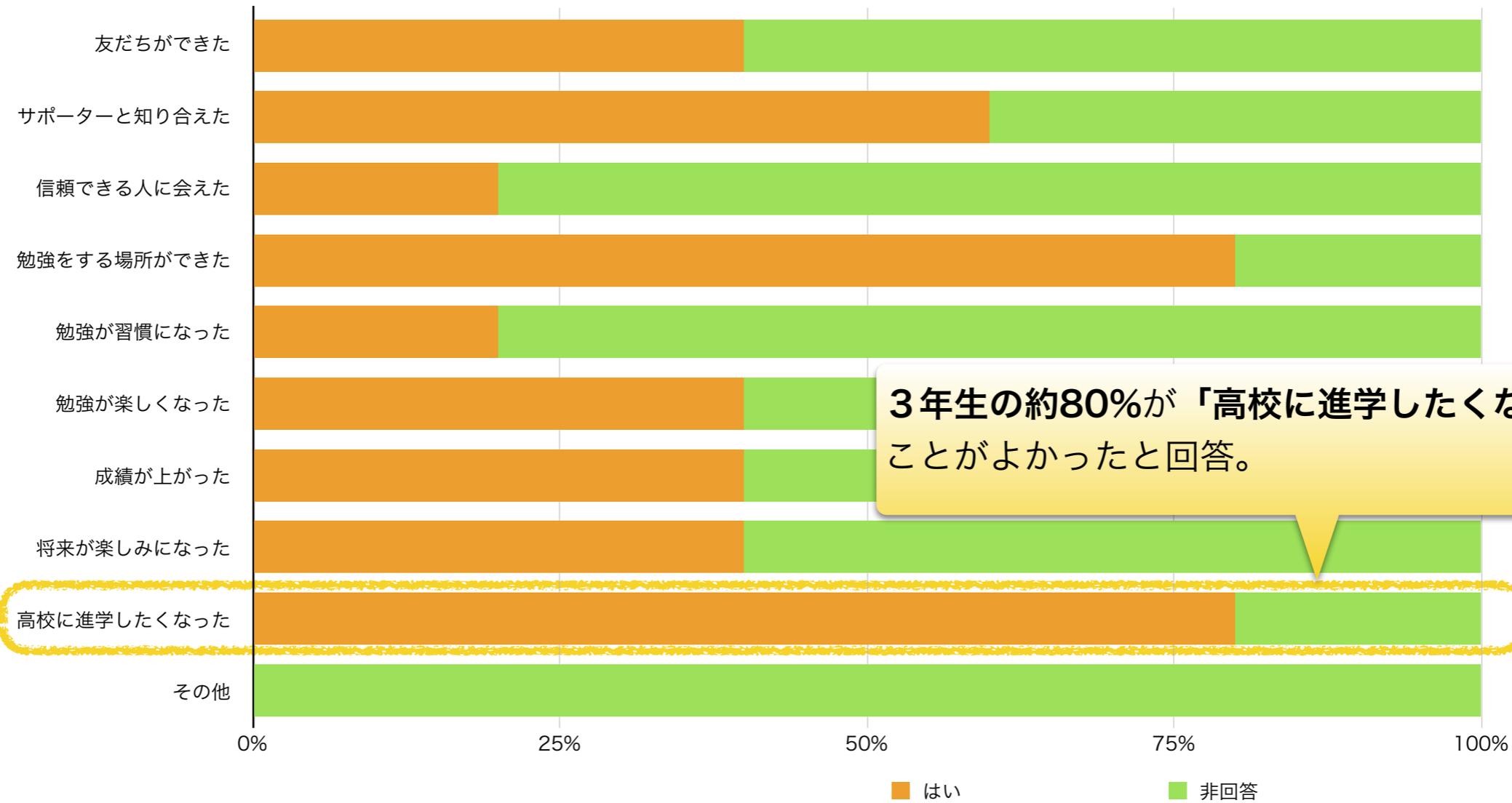
子どもの半数以上が「来室してよかったこと」に「友だちができた」「サポーターと知り合えた」を挙げている。



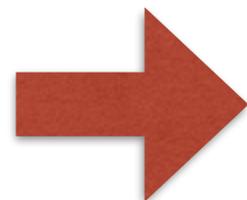
本事業が無ければ会えなかった人と出会えたことを子どもは「よかった」と感じている。

子どもたちの声 (3年生限定)

1. なかわくに来て良かったと思うことはなんですか。(3年生：n=5)



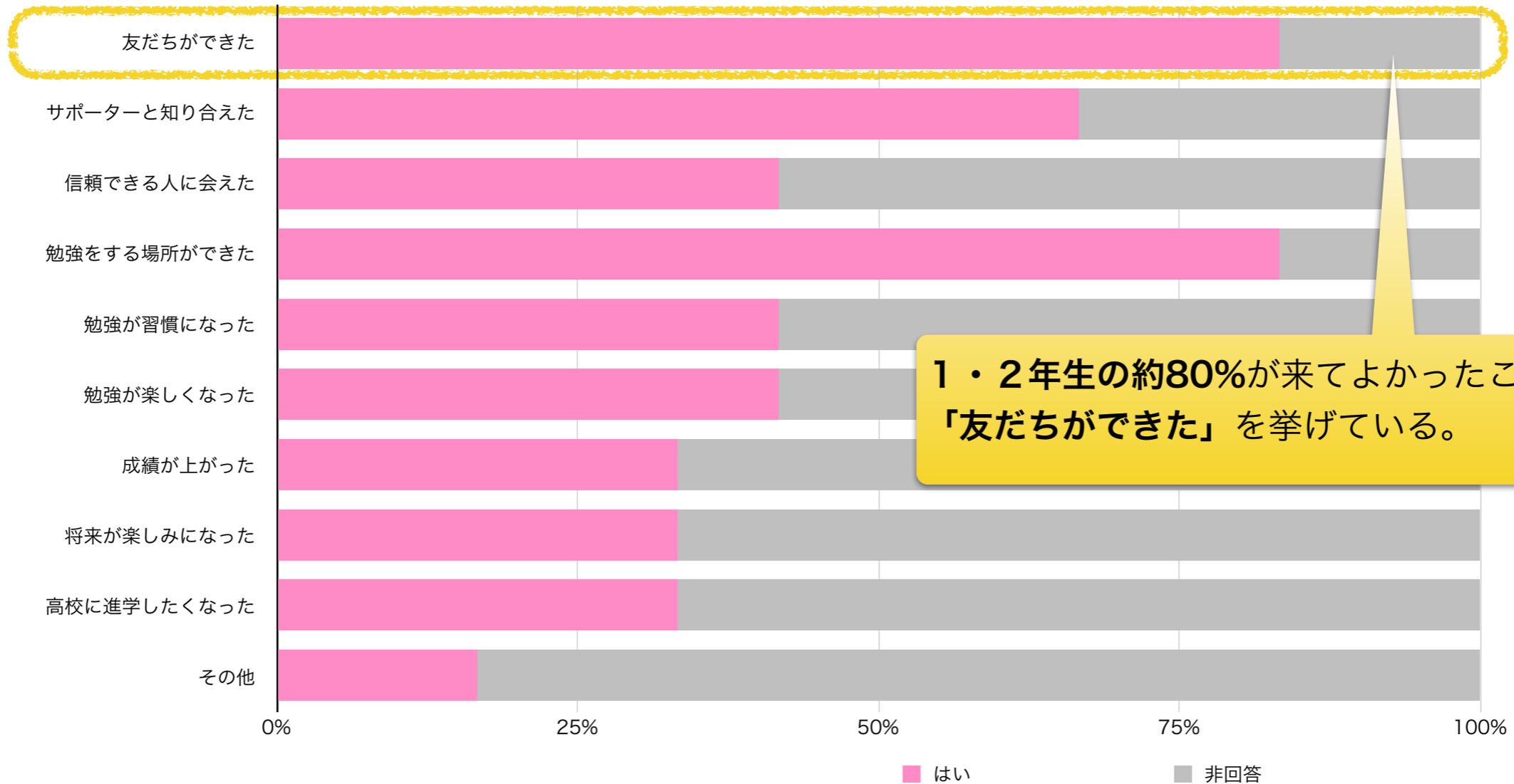
3年生の約80%が「高校に進学したくなった」ことがよかったと回答。



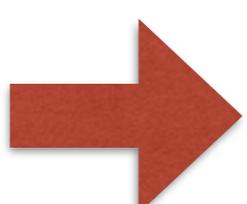
本事業は3年生の進学意欲の向上に貢献した。

子どもたちの声 (1・2年生限定)

1. なかわくに来て良かったと思うことはなんですか。(1・2年生:n=12)



1・2年生の約80%が来てよかったことに「友だちができた」を挙げている。



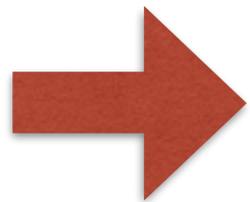
1, 2年生は「居場所」として他の子どもと交流できることに意義を感じている。

1・2年生は集団での学習支援を行っているため、子ども同士の交流機会が3年生よりも圧倒的に多いと考えられる。

出席率の低下した子どもへの対応

・ 3年生のHさん（仮名）

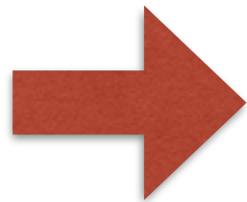
→8月から欠席が目立つようになった。来室した際、サポーターが聞き取った所、「サポーターが固定でないため来る意味が無い」という旨の発言をしていたとのこと。



「2対2」によるグループ制を導入した結果、再び来室するように。

・ 3年生のJさん（仮名）

→グループ制となる前は欠席していたが、グループ制になってから来室再開。その後、当学習会に通う他の生徒とトラブルを起こし、再び欠席となる。

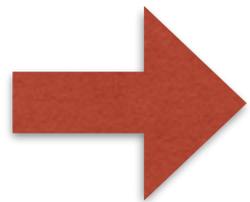


電話連絡を毎週行い、学習会とつながりがある旨を伝え続ける。
また、トラブルの相手となった生徒が私立の推薦入試に合格した後、受験を控えた生徒を対象とした特別開室がある旨を連絡。
この特別開室をきっかけに来室を再開し、トラブルの相手となった生徒とは学習会の中で仲直りした。

出席率の低下した子どもへの対応

・ 3年生のHさん（仮名）

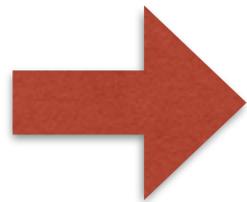
→グループ制となった後、来室再開したが冬休み頃から再び欠席が続く。保護者によると、生活リズムが乱れて開室時刻に寝ているとのこと。



他の生徒からも「開室時間が遅い」という意見があった。
冬季の開室時間は再検討の必要あり。

・ 3年生のKさん（仮名）

→開室直後に2回ほど来室して以来、ずっと欠席。保護者には「参加する際に電話する」と言われたため、こちらからも連絡をしなかった。

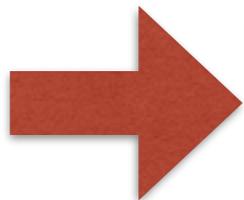


当該の生徒は学校も不登校気味との事で、勉強のレベルも1年生程度だった。同じ学校の3年生と一緒に部屋で勉強するのがプレッシャーだった可能性も考えられる。

子どもたちの声 (アンケートより引用)

- ・ とても楽しくうちとける場所なので、雰囲気はこのままであってほしい。
- ・ なかわくの人たちがやさしくせってくれるところがいい。
- ・ おもしろい。何もしないよりかはよっぽどマシと感じる。 友達もできたし。
- ・ (なかわくが「もっとこうだったら良いな」と思うことはありますか?という質問に対して) わかりやすいのとフレンドリーなところがあるので、そのままで大いじょうぶだと思います。
- ・ 先生や他の学年子との交流が楽しい!!

(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)



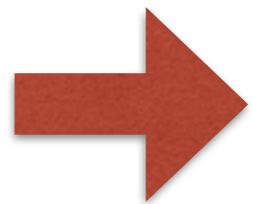
学習サポーターと子ども、または子ども同士が仲良く打ち解けられる雰囲気作りができたと考えられる。

子どもたちの声 (アンケートより引用)

・ 終わる時間が少しだけおそいです。2時間は全然大丈夫なのですが、時間がおそいなと思います。

・ ここに来て成績が少し上がったのでよかったです。ただ、いつも8:30にはふとんにはいていたのですごくねむくて、最後の方は集中できないしおなかがすきます。あと、夏とかだと、部活がおわるのが6:00なので6:30から来るのがむずかしいです。時間帯がすごくおそいと思います。子どもは、はやね・はやおき！！

(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)

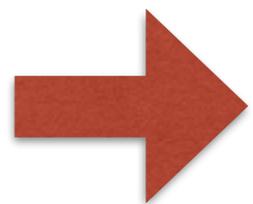


「開室時間が遅い」という意見がある一方、部活動が夏時間帯の期間は18時30分開室でも間に合わないとのこと。

・ おかしをもっとおなかにたまるものにしてほしいです。にくまんサイコーでした。毎日楽しく勉強できているのですごく良いです！でも、とにかくおなかがすいて眠くて手に力が入りません…。

・ ばんめし だせや

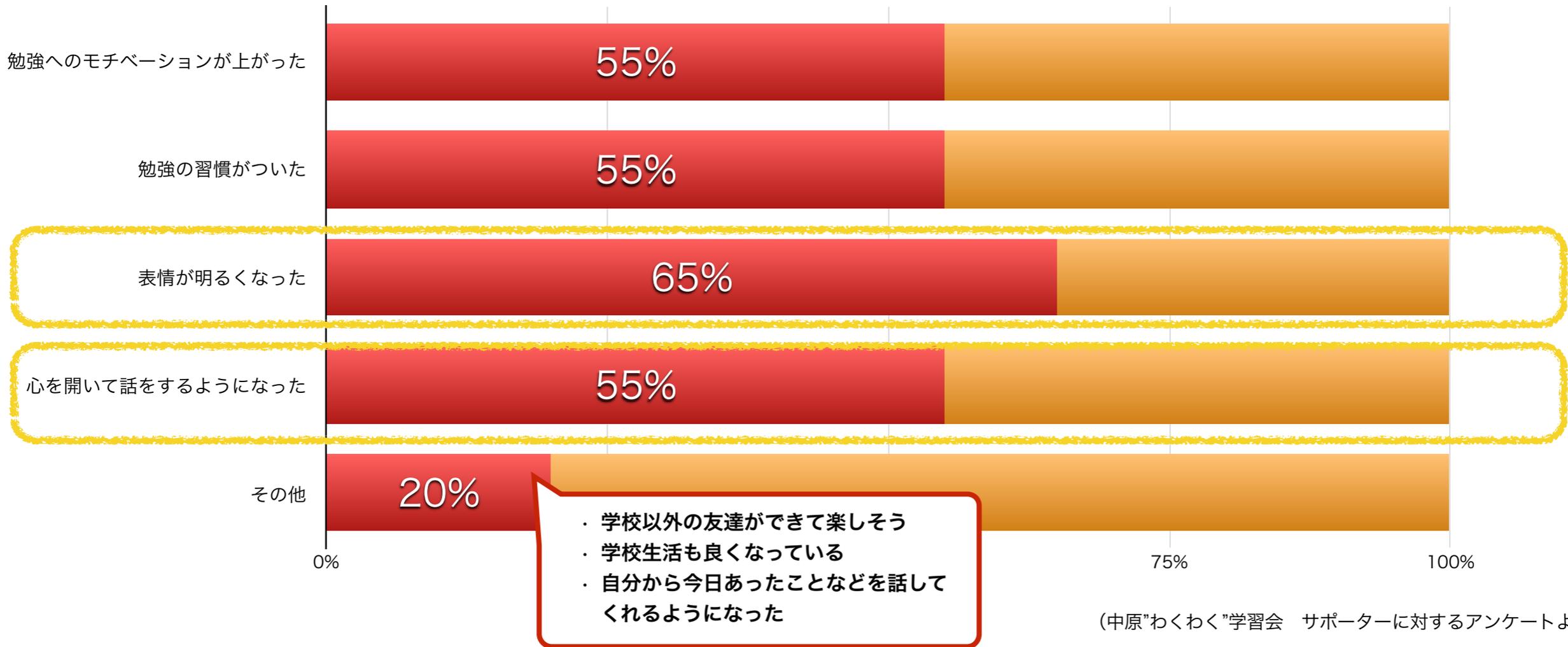
(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)



時間帯が遅いため、来室前に夕食を食べられず、空腹となる子どもがいた。

サポーターの声 (居場所づくり事業としての成果関連)

開室期間全体を通して子どもたちにどのような変化がありましたか。(n=20)



サポーター視点でも来室直後よりも心を開いて話をするようになったという声が多く、安心感と自己肯定感を醸成することには一定の効果があったと考えられる。

サポーターの声

(アンケートの「心に残る子どものエピソードは？」に対する回答から引用)

- 最近は生徒たちが遠慮せずに話しかけてくれたりして楽しい。最初はオドオドしてたのに。信頼関係が築けてきて良かったなと思う。
- 最初はおとなしくまわりの様子を伺っていた中2女子が、学校ではあまり見せられないでいるお喋りで人なつっこい本性を安心して見せられるようになった時。そしてそれ以降水を得た魚のように楽しそうにサポーターやお友達と話をしている時。
- 自分は人見知りで緊張しやすいといい、自信なげでしたが、最近では自分の前向きな考えをどんどん話してくれます。
- 最初Aさんを担当した際、一歩引いて関わっているなーと感じたが、久しぶりに担当した時、素を出している感じがした。なぜか聞いてみたら、「話しやすそうで素を出してもいいなと思った」と言っていた。どんな生徒もこちらが壁を作らなければ心を開いてくれるのだと感じた瞬間だった。
- 日々の会話のすべてが心に残っています。どの子供たちも心を開いて話してくれてプライベートの話まですべてが心にのこっています。

(中原”わくわく”学習会 サポーターに対するアンケートより)

居場所づくりとしての成果 総括

【「子ども同士、子どもとサポーターが仲良く過ごせる場所」として機能。】

子どもたちの50%以上が「友だちができた」ことや「サポーターと知り合った」ことがよかったとアンケートで答えていることから、子どもたちが学校や家庭以外の場所に新しいつながりを持ち、その中でお互いを認め合うという経験をすることができたと言え、居場所感の創出につながったと考えられる。

【3年生の進学意欲の向上に貢献。】

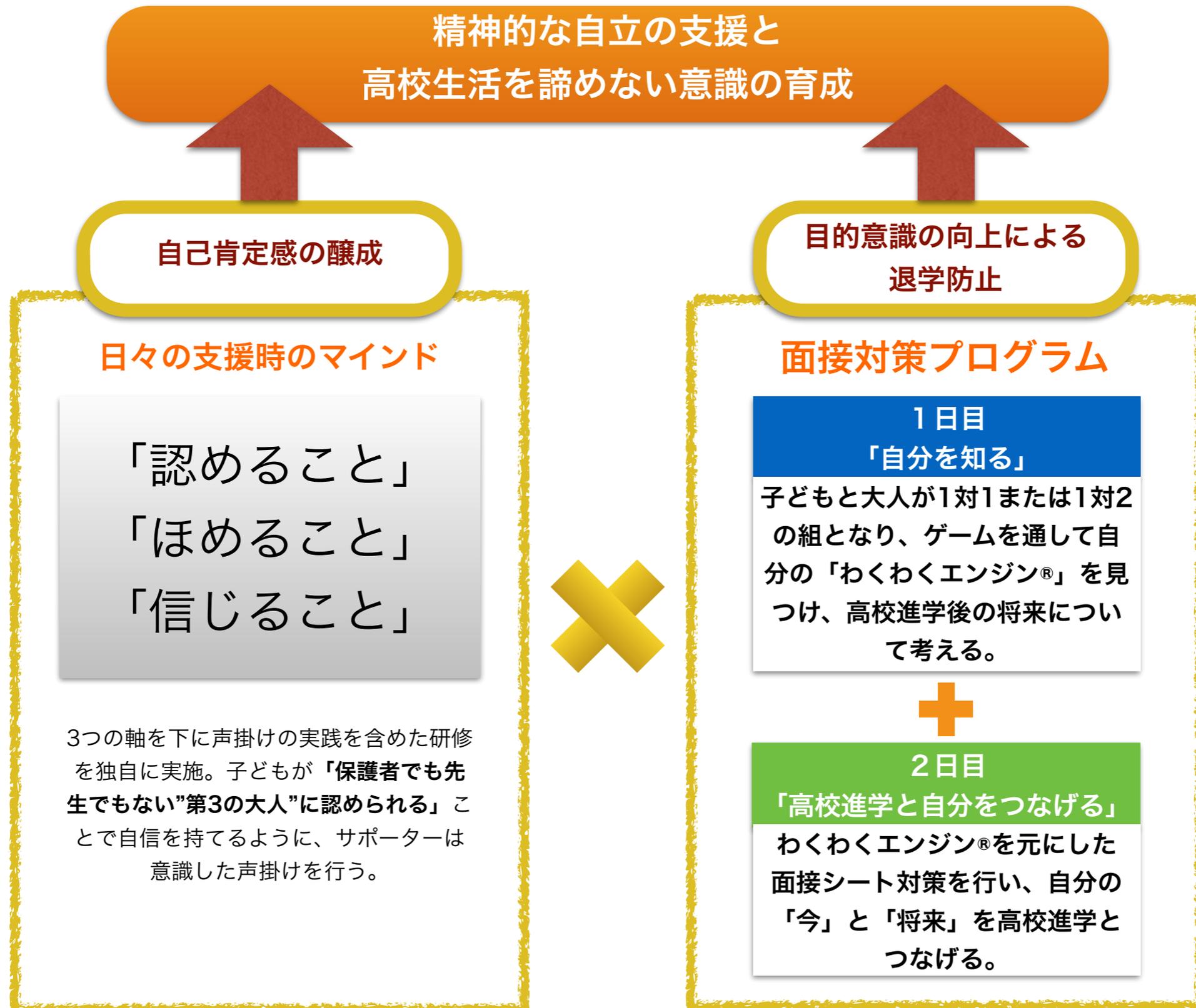
3年生の約80%が「高校に進学したくなった」ことがよかったと答えていることから、本学習会が進学意欲の向上に貢献したと言える。これは、学習支援の中に後の章で紹介するキャリア教育プログラムを組み込み、学習サポーターと連携して将来について希望を見出せるような支援を行った結果であると考えられる。

【開室時間と欠席の続く子どもへの対策に関して再考の余地あり。】

「開室時間が遅い」という意見がある一方部活動が夏時間帯の時期には18時30分開室でも間に合わないということがわかった。夏時間帯は18時30分、冬時間帯は18時から、という開始にした上で、部活動のある子どもについては19時からの来室を見込んだ計画をたてる必要があると考えられる。また、欠席の続く子どもについては不登校で学力が極端に低い子どもが多く「同じ学年の子が勉強している」場所に対するハードルが高いということも考えられる。不登校の子どもについては、別の部屋でサポーターと1対1で勉強に重きを置かない支援をするといった工夫が必要であると考えられる。

キャリア教育の成果

キャリア教育カリキュラム概要

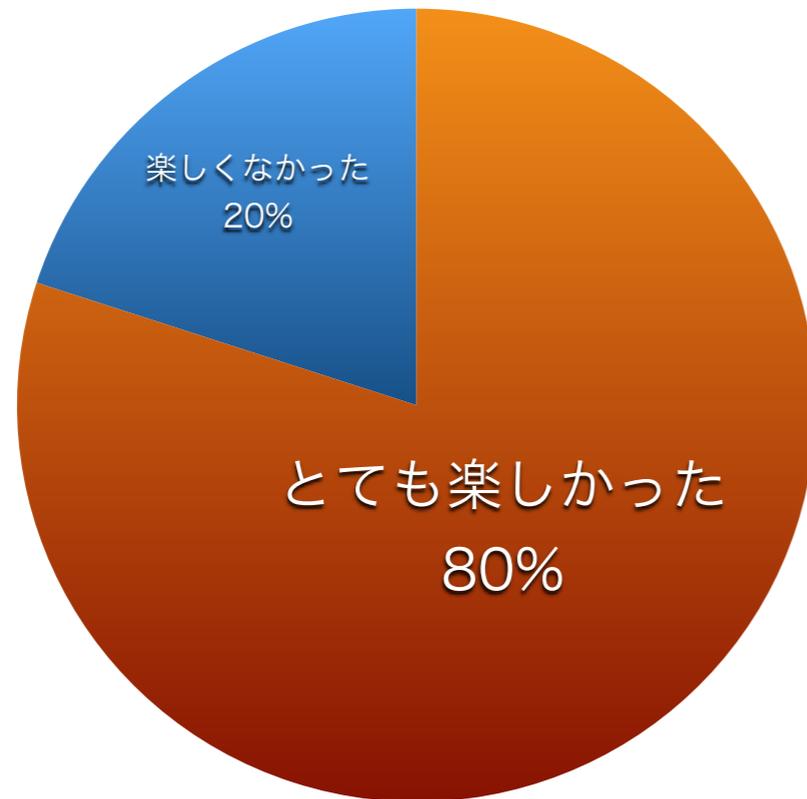


面接対策プログラム実施実績



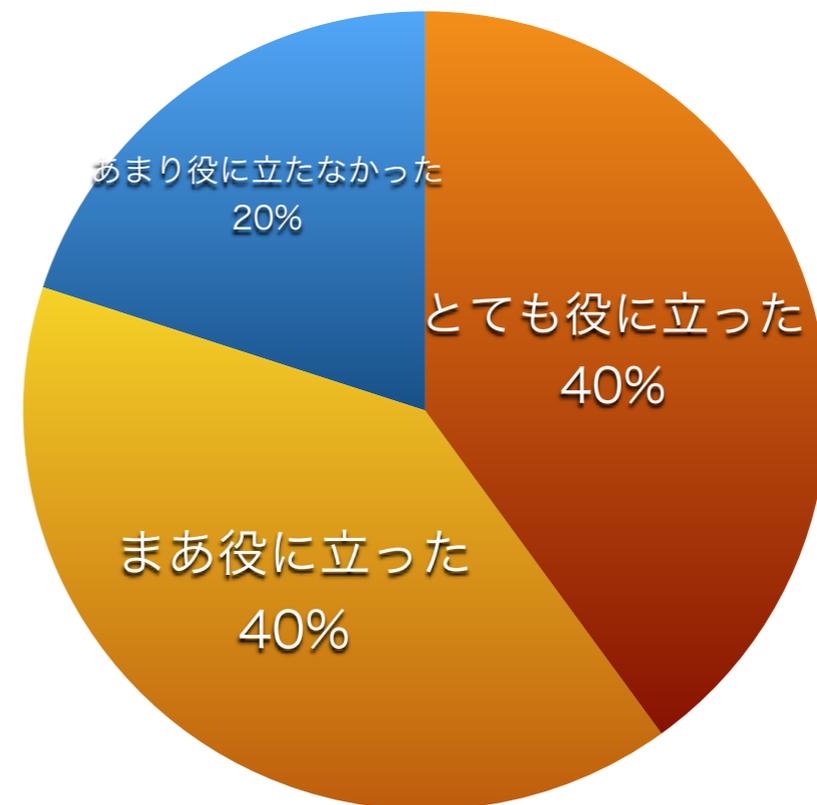
面接対策プログラムに対する子どもたちの声

面接対策プログラムは楽しかったですか（3年生のみ）



● とても楽しかった ● まあ楽しかった ● あまり楽しくなかった
● 楽しくなかった

面接対策プログラムは役に立ちましたか（3年生のみ）



● とても役に立った ● まあ役に立った ● あまり役に立たなかった
● 役に立たなかった

・ 受講した子どもたちの約80%が「とても楽しかった」「役に立った」と回答。

面接対策プログラムに対する子どもたちの声 (アンケートから引用)

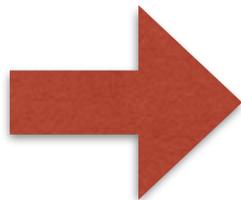
・自分のことが知れたり、面接シートをかくときにも役に立ちました～。

・自分のやりたいことがくわしくわかった。

・科学の話をしたので、面接シートに科学と理科のことがかけました。

・面接をしやすくなった。

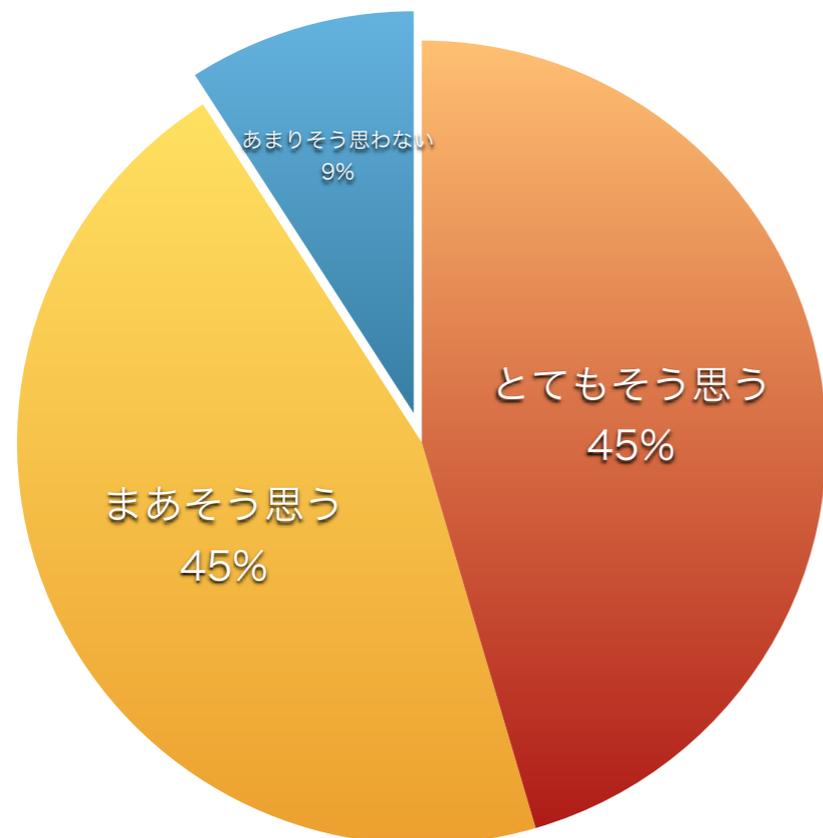
(中原”わくわく”学習会 登録生徒に対するアンケートより)



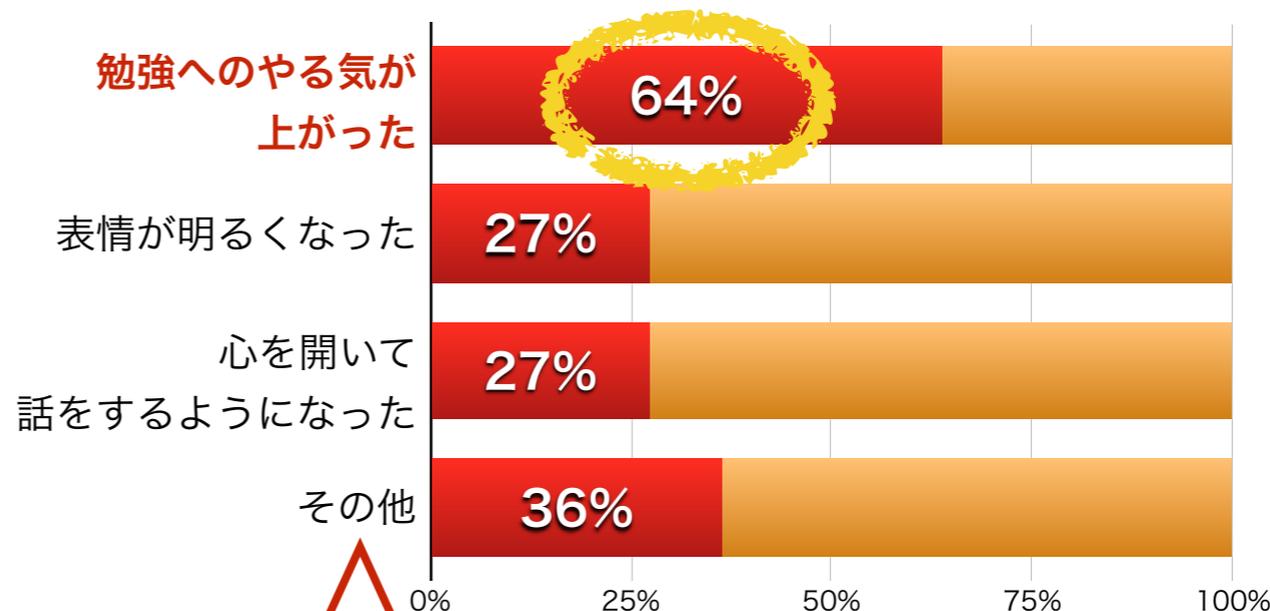
自分への理解が深まったことと、出願の際に必要な「面接シート」の記入に役に立ったという声が集まった。

サポーターの声 (面接対策プログラムについて)

(3年生担当のみ) 面接対策プログラムの実施後に子どもに良い変化があったと思いますか。(n=11)

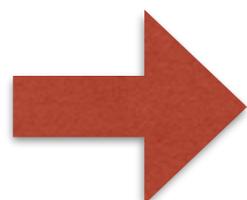


具体的には…



- ・ 自信がついているように感じた。
- ・ 将来やりたいことが明確になった
- ・ 自己肯定感を得るきっかけになっていたように感じました。

(中原”わくわく”学習会 サポーターに対するアンケートより)

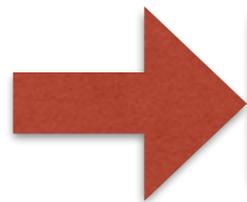


サポーター目線から、面接対策プログラムは勉強に対するモチベーションの上昇や将来に対する意識の向上に効果があったと考えられる。

その他進学に関する支援実績

・ 3年生のKさん（仮名）

将来、食に関連する仕事に就きたいと考え、家庭課がある高校を志望。ところが、内申点の都合で私立推薦でしか希望のコースがある学校に入学できないことが判明。保護者は私立は難しいと考えているのに対し、子どもは素直に自分の気持ちを話せない状態であった。そのため、学習支援専門員から保護者に直接電話をし、事情を説明。検討の結果、私立の推薦受験が認められ、希望の進路を実現。



その他「進路に関する情報が欲しい」といった保護者からの質問に対し対応するなどし、保護者も子どもも納得できる進路選択を支援。

キャリア教育プログラム 総括

【進学や勉強に対するモチベーションの向上に貢献。】

3年生を担当した経験のあるサポーター18人の内、11人が「子どものモチベーションが上がった」ことを実感していることから、キャリア教育プログラムは学習意欲の向上に効果があったと考えられる。

【実践的な面接対策に貢献。】

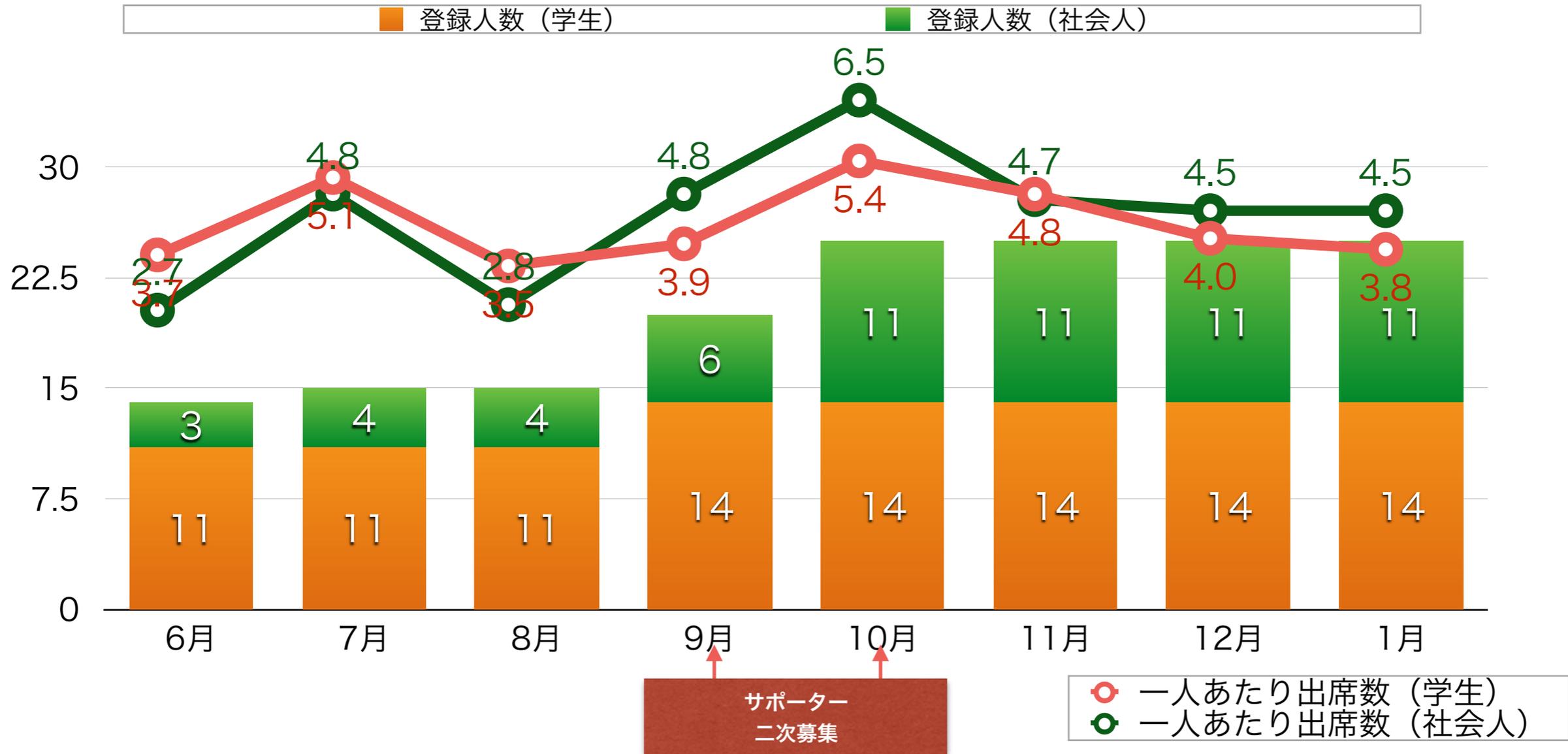
プログラムを受講した子どもの約80%が「面接対策プログラムは役に立った」と回答しており、本プログラムが実践的な面接の対策として機能していることがわかった。

【面接対策プログラムの実施時期を早める。】

面接対策プログラムを通して、子どもの理解が深まり、授業時に役に立ったという声も上がっていた。また、学習会の後半になると受験直前期となり、来室時間を勉強に充てたいというニーズが高まるため、実施時期を来室初日にするなどして早めに実施することでよりプログラムの効果が高くなると考えられる。

学習サポートー夕ー関連

学習サポーター数と出席数の推移



- ・ 登録サポーター数14名から開始。
- ・ 9月～10月にかけて子どもの二次募集のため学習サポーターを増員。

研修実績

事前研修 (随時)

【日時】 学習サポーター登録時に開催 (全8回)
【場所】 川崎市民活動センター・キーパーソン21事務所
【サポーター出席人数 (延べ)】 25人
【内容】 基本的な方針の共有、子どもとの接し方、業務説明など

サポーター ミーティング (7月・9月)

【日時】 平成26年7月20日・9月2日
【場所】 川崎市民活動センター
【サポーター出席人数 (延べ)】 20人
【内容】 情報共有、合宿の内容検討、受験に向けた指導法など

3年生 個別作戦会議 (9月・10月・12月)

【日時】 平成26年9月～10月、12月
【場所】 川崎市民活動センター
【サポーター出席人数 (延べ)】 20人
【内容】 授業計画の作成、検討

まとめ

今年度の成果

(各章の総括より再掲)

- 「勉強できる場所」の提供そのものに意義があると再認。

- 「子ども同士、子どもとサポーターが仲良く過ごせる場所」として機能。
- 3年生の進学意欲の向上に貢献。

- 進学や勉強に対するモチベーションの向上に貢献。
- 実践的な面接対策に貢献。

次年度への課題 (各章の総括より再掲)

- 3年生の学力向上に成果あり。1,2年生については見直しが必要。
- 「子どもが一人でも学習ができる」ことを目標とした支援を検討。

- 開室時間と欠席の続く子どもへの対策に関して再考の余地あり。

- 面接対策プログラムの実施時期を早める。

次年度の方針

【「自立した学習」のための学習支援。】

- ・ 教室外学習を実現するためのハンドブックの準備や、教室外学習に関する相談を受けることにより、教室外で自力で勉強できるよう支援する。

【社会への窓口としての居場所づくり。】

- ・ 不登校等の事情で社会との接点が薄くなっている子どもでも来られるよう支援を行う。

【面接対策プログラムの早期実施。】

- ・ より子どもに寄り添った”子別”の支援を実現するため、面接対策プログラムを来室初日などの早期に実施する。



”すべての人がキーパーソン”

お問合せ先

認定NPO法人 キーパーソン21

電話番号 : 044-431-0420

FAX番号 : 044-431-0421

Eメール : info@keyperson21.org